

CCUS研究開発・実証関連事業

令和6年度概算要求額 95億円（80億円）

資源エネルギー庁資源・燃料部
燃料環境適合利用推進課 CCS政策室

事業の内容

事業目的

CCSは2050年カーボンニュートラルの達成に向けて鍵となる技術であり、北海道苫小牧市における大規模CCS実証、CO₂船舶長距離輸送技術開発、安全かつ低コストなCO₂貯留技術の研究開発等を通して、CCSの事業化に必要な技術の開発・実証を行うことを目的とする。また、我が国技術の国際展開に向け、技術開発の国際動向調査や規格化を実施する。

事業概要

我が国の2050年カーボンニュートラル実現に向け、CCSの事業化を図るため、以下の事業を実施する。

（1）苫小牧での大規模実証：CCS大規模実証試験において、CO₂の海底下貯留の許認可を規定する海洋汚染防止法を遵守すべく、引き続き圧入したCO₂分布の分析及び海域の状況等を監視（モニタリング）する。

（2）CO₂長距離輸送実証：世界に先駆け、船舶による液化CO₂の長距離輸送の実証を行う。

（3）安全なCCS実施のためのCO₂貯留技術の研究開発：CO₂貯留技術に関する安全性を担保した、低コストかつ実用規模の安全管理技術の確立を目指した研究開発を実施する。

（4）CCUS技術に関する調査：第6次エネルギー基本計画及びCCS長期ロードマップの遂行に向けて必要となる調査を実施する。

（5）二酸化炭素回収・貯留（CCS）のバイ・マルチ協力、国際動向調査およびISO規格化を行う。

事業スキーム（対象者、対象行為、補助率等）



成果目標

平成30年度から令和8年度までの9年間の事業であり、短期的にはCCS事業開始に必要な技術の確立を目指す。中期的には2030年CCS事業開始に貢献することを目指す。最終的には2050年に年間1.2～2.4億トンのCO₂圧入を目指す。